

令和4年度第2回厚木市環境教育等推進協議会会議録

〔会議主管課〕 環境農政部環境政策課

〔日 時〕 令和5年2月28日（火）14時から16時まで

〔場 所〕 市民交流プラザ 602

〔出席者〕 厚木市環境教育等推進協議会委員 8人

環境農政部長、環境政策課環境政策係長、ほか事務局 1人

令和4年度第2回厚木市環境教育推進協議会

1 開 会

2 挨 拶 小澤会長

3 案 件

（仮称）厚木市環境教育等行動計画の構成について

4 その他

事務局

【案件について、資料に基づき説明】

A委員

将来像について伺いたいのですが、計画の期間が2030年度までということで、2030年を指して将来像と言っているのか、漠然と将来と言っているのか、この辺の考えを教えてください。

事務局

ここでいう将来像は、2030年ということではなく、厚木市として環境教育について将来的に目指す姿という意味合いで考えていただければと思います。

B委員

長いこと環境教育をやってきて思うのは、環境教育の基本は生きる力を身に付けてほしいということです。

自然に対峙して生きる力を身に付けさせる、そういった環境教育であってほしいと思います。

会長

厚木市はとても素晴らしい自然環境を持っているので、それを活用しながらウェルビーイングな社会、地域を作っていくということが求められていると思います。

A委員

環境教育の将来像というところですが、「環境問題を自分ごととして捉え」とあります。自分ごととして捉えるというのは非常に大事で進めていかなければいけない話ですけれども、環境問題という言葉を知ると公害のイメージを浮かべてしまう人もいます。環境問題という言葉の意味が受取手によって変わってしまうのではないかと思いますので、環境問題ではなく、環境という表現のほうが良いと思います。

C委員

子どもたちは環境という漠然としているところよりも、こういう問題があるから、ここは困っているから、こんな風に解決していこうという一つの入り口として学んでいると思います。発達段階があると思いますし、厚木市全体の計画としては、環境という大きな捉え方でも良いと思いました。

D委員

環境問題に特定しない方が良い気がします。問題の解決に向けてということに限定されてしまうので、例えば持続可能な社会を作っていくとか、未来に向けての提案やみんなで作っていくような言葉が一つ入ると良いと思いました。

会長

教育というのは、学校の先生が子供たちに教えることだけではなくて、子供たち、児童・生徒さんが先生たちに教えるということ、あるいは児童生徒の取組から先生たちが気付くということもあります。または、市民同士で学び合う。そういった意味も含まれていると思います。

E委員

1点目の論点としての全体の構成につきましては、市の計画は概ねこういった構成となっていますので良いと思います。

ここで初めて作り上げる環境教育の計画ということで、今までもごみの計画や温暖化の計画、環境基本計画で、それぞれ啓発や環境教育のことを掲載していますが、ここで統合する必要があります。教育委員会側でも環境教育のことをやっているのですが、そういった環境教育を網羅的に見られるものはありませんでした。

環境教育の行動計画として行政側、それから教育現場、市民の活動ということで、どういうジャンルでどんなことが行われているかというのが網羅的に見られる計画になれば、構成はこのような形で良いと思います。

皆さんの御意見でも、将来像についての御意見が多いと思いますが、将来像につきましては、個人的には人づくりというところで、環境教育ではあるのですが、より良き市民をつくるという意味合いで考えると未来を変える力を育むような、自分で考えて、周りの人を巻き込みながら、あるべき将来に変えていけるエネルギーというか、原動力を持っているような人を育てていけば環境問題も解決するでしょうし、いろいろなものがそれぞれ解決していけると思うので、未来を変える力を育むというニュアンスが入っていると良いと思います。

C委員

小学校では、人にも物にも優しくということで、本校もSDGsの学習を各学年の発達段階で取り組んでいます。

教員が取り組んでいるのは、1年生の入学準備の品物なのですが、今まで一括購入していたのですが、幼稚園や保育園で使ったものを使ってもらうことで物を大切にしてもらいたいと思っています。

また、粘り強さというところで、ダメでもこうしてみよう。それでもダメだったらこうしてみようと粘り強く、いろんなものを解決していく力というのを付けていきたいと日々取り組んでいるのでそういった言葉が入ると良いと思いました。

D 委員

先ほどの環境問題という言葉ですが、例えばですけど、環境問題という言葉は自然共生社会に入れ替えただけでも、随分イメージが変わると思いました。あるいは自然と共生する社会について考えるみたいなものとか。あと、厚木市らしさみたいなものを入れた方が良いと思いました。

F 委員

もし、できましたら行動計画の中に、厚木市らしいことを盛り込めないかと思っています。知らない方が読んでみて、厚木の話だということが気付くような形で、何か盛り込めたら良いかなと感じます。

E 委員

柱立ての部分ですが、環境基本計画で脱炭素や循環型社会などまちづくりの分野に分けているので、今回環境教育ということで同じまちづくりの分野に分けてしまうと、寄せ集めでしかないのではよくないと感じます。

環境教育等促進法で体験の場づくりとか、協働取組みたいな話が重点化されているので、場づくりみたいなところはあった方が良いでしょうし、あとは体制づくりという表現なのか、どういう仕組みの中で全体的には進めていくみたいなパターン1が良いかなと思いました。

G 委員

人づくりと考えたときに、小中学校の学校時代で、何を学んでいくのかというのが、すごく重要かと思います。資料1 体系イメージの柱で気付くというのは、当然子どもたちは各教科でいろんな学習をしています。先生方がいかに気付きを与えていき、子どもたちが学んだものを結びつけていくということが大事だと思います。

先生を中心とした学びから、地域の力が入ってきて主体的に学び、理解が深まる。地域が入ってくることによって活動している人、活動できる場所があると知るきっかけにもなりますし、分からないから次に繋がらないのかと思います。

地域の力が学校に入ってきて、学校の力がまた地域に出ていくという風に、人と場づくり、地域づくりというのは、システムのつながると思います。

D委員

環境教育ではよく「in about for」という考え方があるのですが、幼少期の頃は、「in」環境の中に入り体感し、「about」環境について学び、「for」環境のためにどう行動していくか考えると、体系イメージの柱とリンクすると思います。

最後のつなげるは、何々のためにとか何々に向けてなど、未来思考で向かうところがあつた方がポジティブな感じで良いと思います。

今の学習指導要領も、OECDのPIISA(生徒の学習到達度調査)などの影響を受けて改訂されているのですが、次にキーワードになるのが会長も仰っていたウェルビーイングだとか、エージェンシー、主体的に関わりながら変えていく力をつけている人のことですが、そういう人づくりをしていこうというのが主流になりつつある中で、つなげるだけではなく、プラスアルファでほしいと思います。

会長

厚木らしさ、例えば自然の恵みを食生活に取り入れるとか、「文化」に結びつける発想があると良いと思います。

また、議論の中で出てなかったですが、「through」、つまり何々を通してという概念、その地域の自然を通して、文化的な気付きにつなげられると地域の特色をいかした行動計画になると思います。

E委員

この柱の置き方としては、先ほど、人づくり場づくりみたいなものが良いのではないかという話をしていたのですが、職務代理やG委員のお話からすると資料の体系イメージで記載している、気付く、深める、つなげる、つなげるは文言を置き換えるとして、そういう切り口の方が、環境教育のセオリー的には良いという感じなのではないでしょうか。

G委員

教育現場のイメージでいくと、パターン2の方がスムーズに落とし込めると思いました。

会長

この地球環境的な危機にとっては、要素と要素のつながりが必要になってくると思いますが、やはりただ問題を知るだけではダメなので、「共創」、ともにつくるという概念が必要かと思います。

A委員

2050 年カーボニュートラルを目標に掲げて明文化しているわけですから、これを実現するためには自分たちも何かしなければならぬとそんな気付きにつながる言葉として共創という言葉はぴったりだと思いました。少し難しいとは感じますが。

会長

ともにつくるでも良いですね。

事務局

貴重な御意見ありがとうございます。それでは御意見いただいた内容をまとめさせていただきたいと思います。

まず、全体の構成についてですが、お示した内容で作成を進めてまいります。

また、将来像につきましては、いくつかこういったワードを入れていただきたいというキーワードが出ましたので、次回会議においていくつか案を作成し、お示しします。その中からどれが良いか御意見をいただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

柱立てにつきましては、最終的にパターン2の人づくりの視点でというところで、ベースはこのイメージに記載している「気付く」、「深める」、柱3については「ともにつくる」でよろしいでしょうか。

【承認】

事務局

ありがとうございます。

H委員

一点よろしいでしょうか。将来像の文言の中で人材づくりという言葉が少し引っかけられます。人づくりとしていただければと思います。

A委員

今後のスケジュールはどのようにになりますか。

事務局

新年度が始まりまして、6月、7月頃に次の会議を開催したいと考えています。来年度中に計4回ほどの開催を予定していますので、次回の会議で大まかなス

ケジュールをお示しします。

司 会

会長ありがとうございました。

次第の4その他につきまして、皆様から何かありますでしょうか。

・ユネスコエコパークの情報提供について

司 会

ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。

特にないようでしたら、閉会の御挨拶を職務代理からお願いします。

職務代理 【閉会の挨拶】

閉 会